

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
6	植松 光徳（8）	<p>1. 富士市立中央病院の目指す姿と健全な病院経営について 市民が安心して質の高い医療や患者サービスを受けられるためには、安定した経営基盤が確立され、健全な病院経営が図られる必要があります。富士市の基幹病院である富士市立中央病院では今年度より富士市立中央病院中期経営改善計画（公立病院経営強化プラン:以下、「経営強化プラン」という。）が改定され、運用が開始されました。</p> <p>また、本年度は医療、介護、障害福祉の3つの報酬が6年に1度同時に改定されるトリプル改定の年です。診療報酬は医療機関が保険適用範囲内の医療行為や医薬品を提供した対価であり、国の示す方向性に沿って医療機関全体を動かしていくものです。つまり上位の診療報酬を算定することで、医療の質を高め、よりよい医療を患者に提供できます。本改定では賃上げ、医療DX、ポストコロナの感染対策の推進などが主な改定ポイントとして国から示されました。</p> <p>そこで、持続可能な医療提供体制確保のための経営強化プラン・診療報酬改定を踏まえた中央病院の目指す病院経営の在り方について、以下伺います。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症患者を受け入れたことによる補助金により黒字化したが、その補助金がなくなった今、具体的にどのように本来業務である医業収益を増やしていくのか。</p> <p>(2) 本計画期間中に地方公営企業法の一部適用から全部適用へ経営形態の見直しを検討するとあるが、そのスケジュールを伺う。</p> <p>(3) 医療職等の賃上げを評価したベースアップ評価料について、多くの職種が対象となるが、中央病院で評価料の対象として賃上げを図った職種はどの職種か。</p> <p>(4) 三次救急医療機関などと地域の一般病院との平時からの連携と実際の転院搬送を評価した救急患者連携搬送料についてどのように算定を進めているか。</p> <p>(5) 適切な診療記録の管理を行っている体制を評価する診療録管理体制加算1の取得のため、セキュリティにおけるBCPを策定し、訓練・演習を実施することについてどのように進めていくのか。</p> <p>(6) 地域における高度急性期医療を実施する体制を評価した急性期充実体制加算の取得のためには、年間2000件以上の全身麻酔件数や350件以上の緊急手術が必要となる。経営強化プランでは令和10年の全身麻酔の目標値が1800件であり、緊急手術の件数も定められていないが、この理由を伺う。</p> <p>(7) 経営強化プランでは、令和10年には病床利用率を81%へ上昇させる目標設定を行っているが、経営戦略に絡んだベッドコントロールを担うセンターを設置してはいかかか。</p>	市長 及び 担当部長